

つくば・TX版
沿線

被災地・石巻

再建神社にCG奉納

つくばの学生ら竣工祝う

東日本大震災の津波被害を受けた宮城県石巻市雄勝町にある葉山神社の竣工祭で20日、筑波大出身のみこし華人宮田宣也さん（28）＝つくば市＝と学生らでつくるチームが「コンピューターで制作した映像を建物に投影する『プロジェクションマッピング』」を奉納する。同町で復興に関わってきた宮田さんは「これまでの雄勝への想いを竣工のお祝い、これからは雄勝の住民に『未来を夢見られたら』と無気込んでいます。

雄勝町は震災で大きな被害を受けた。映像の題材にした。9人が作り上げた動画は、雄勝を再び、沿岸に。2012年当時「希望の形」。震災当時つくば同神社は全壊し、雄勝小学校5年生の「初から町の復興、そと

地元小学生の版画題材に



プロジェクションマッピングで題材とした小学生の版画を手にする宮田宣也さん（左）らチームメンバーつくば市百鬼の筑波学院大

わたが家族を待つという未来へのストーリーが描かれる。地域の美しい風景をメインにした前半部分と合わせて、2部構成の

約60分間の映像となる。映像制作は、情報系情報科学の筑波大卒業生らでつくる「つくば」が担当した。震災発生直時、筑波大卒業生だった宮田さんは「今は石巻北にボランティアで関わっている。11年秋に開催の同町復興祭の祭りでみこし作りをするなど、雄勝と縁ができた。雄勝に帰って」復

興の進まない雄勝の現状を、これからの目を向けてほしいと書きた。仕事で帰った熊山の神社で4月、プロジェクションマッピングのイベントを催した。

ボランティアの知り合いを通じて大学の学生や地域の教員とチームを組み、7月から準備を進めた。竣工祭には雄勝の関係者や民

子、地元の人やボランティアのみなさん。版画を制作した子どもたちも出席を予定する。宮田さんは「復興の道のりは長い。雄勝の復興を一緒に作りたい。多くの人々が協力してくれれば、雄勝の未来を夢見られたら」と話した。（宮田宣也）